

平成29年度事業報告書

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

学校法人多摩美術大学

東京都世田谷区上野毛3-15-34

目 次

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神 2 頁
2. 沿革 2 頁
3. 設置学校等 3 頁
4. 目的・教育目標 4 頁
5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率 6 頁
6. 学部学科・専攻別進路状況 7 頁
7. 役員に関する情報 8 頁
8. 教職員に関する情報 8 頁
9. 学習環境に関する情報 9 頁

II. 事業の概要

1. 中長期的な基本計画10 頁
2. 平成 29 年度 事業計画と達成状況10 頁
3. 各部署の取組み14 頁

III. 平成 29 年度 予算執行状況及び財務状況

1. 資金収支計算19 頁
2. 事業活動収支計算20 頁
3. 貸借対照表21 頁
4. 財務比率22 頁
5. 財産目録23 頁

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神

昭和 10 (1935) 年の前身校 (多摩帝国美術学校) の創立にあたって、その設立趣意書において、「美術は自由なる精神の所産たるを想ふとき、我が美術教育界の缺陷は力説に償するものといふべし。我等同士がこゝに我が美術教育界の缺陷を補填し、我が國美術の振興に寄與せんとする微意に出づ」と壮大な決意を謳いあげている。

美術・デザインの領域における専門教育が官立学校に頼る中、それに匹敵する私立学校を設立し、美術・デザイン領域における専門教育の充実を図ろうとの理念の下に本学は設立された。以来、今日に至るまで美術・デザイン領域における専門職業人、独立した作家の育成を理念としている。

2. 沿革

昭和 10(1935)年	多摩帝国美術学校を 5 年制の美術学校(日本画科、西洋画科、図案科、彫刻科)として現在の東京都世田谷区上野毛の地に創設
昭和 12(1937)年	財団法人設立。女子部が創立され、女子の入学が許可
昭和 22(1947)年	専門学校令により、多摩造形芸術専門学校となり、中等教員無試験検定の指定校となる。
昭和 25(1950)年	旧制の多摩造形芸術専門学校に 3 年制の短期大学、多摩美術短期大学(絵画科、彫刻科、造形図案科)を併設
昭和 26(1951)年	学校法人に組織変更
昭和 28(1953)年	学制改革にともない、4 年制の新制大学多摩美術大学を開学(美術学部・絵画科、彫刻科、図案科)
昭和 29(1954)年	川崎市溝の口校地に多摩芸術学園(2 年制 映画科、演技科)を設置
昭和 30(1955)年	多摩美術短期大学を廃止
昭和 39(1964)年	大学院美術研究科修士課程を設置
昭和 44(1969)年	芸術学科、建築科の 2 科増設の認可
昭和 46(1971)年	年次計画により八王子移転を開始。建築科開講
昭和 49(1974)年	美術学部の八王子移転完了
昭和 56(1981)年	芸術学科を開講し、美術学部は 5 科となる。
昭和 57(1982)年	多摩美術大学附属美術参考資料館が、博物館相当施設の指定を受け一般に公開
平成元(1989)年	美術学部二部(絵画学科、デザイン学科、芸術学科)開設
平成 4(1992)年	多摩芸術学園廃止。美術学部臨時定員増
平成 7(1995)年	大学院美術研究科昼夜開講制開始
平成 10(1998)年	美術学部に情報デザイン学科開設、建築科・デザイン科の改組及びデザイン科・芸術学科の定員減により環境デザイン学科、生産デザイン学科、工芸学科を開設。建築科募集停止。美術学部絵画科、彫刻科、デザイン科を絵画学科、彫刻学科、グラフィックデザイン学科に名称を変更。大学院美術研究科芸術学専攻開設

平成 11(1999)年	美術学部二部を改組し、造形表現学部（造形学科、デザイン学科、映像演劇学科）開設。
平成 12(2000)年	附属美術館を多摩センターへ移転
平成 13(2001)年	大学院博士後期課程開設。附属メディアセンター開設
平成 14(2002)年	大学院美術研究科工芸専攻開設
平成 17(2005)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、環境デザイン学科、芸術学科定員増
平成 18(2006)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科、環境デザイン学科、大学院美術研究科デザイン専攻定員増。附置芸術人類学研究所を設置
平成 19(2007)年	大学院美術研究科デザイン専攻定員増
平成 20(2008)年	美術学部生産デザイン学科定員増
平成 24(2012)年	大学院美術研究科芸術学専攻身体表現研究領域開設
平成 26(2014)年	造形表現学部募集停止 美術学部統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科を開設

3. 設置学校等

(学) 多摩美術大学	理事長	藤谷 宣人
多摩美術大学	学 長	建島 哲
【所在地】		
上野毛キャンパス：東京都世田谷区上野毛 3-15-34		
八王子キャンパス：東京都八王子市鎌水 2-1723		

学部・研究科	学科等	専 攻
大学院 美術研究科	博士後期課程	美術
	博士前期課程	絵画、彫刻、工芸、デザイン、芸術学
大学 美術学部	絵画	日本画
		油画
		版画
	彫刻	
	工芸	
	グラフィックデザイン	
	生産デザイン	プロダクトデザイン
		テキスタイルデザイン
	環境デザイン	
	情報デザイン	
	芸術	
統合デザイン		
演劇舞踊デザイン		

大学 造形表現学部	造形	平成 26 (2014) 年度から募集停止
	デザイン	
	映像演劇	

4. 目的・教育目標

[大学の目的・教育目標]

学則の第一章（総則）第一条に、「広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を育成する」としている。

また、大学院学則第三条に、「造形芸術全般について高度な学理技能及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与する」としている。

専門職業人、作家を育成する上で必要となる、「高い専門性と総合性の融合」を掲げている。

[大学院美術研究科博士後期課程（博士）の目的・教育目標]

大学院美術研究科博士後期課程（博士）は、社会の急速な変化や学術研究の著しい進展に伴い、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材を育成することを目的としている。よって領域に応じた専攻を有する修士課程とは異なり、美術専攻 1 専攻のみを設置し、領域に捕われない美術創作研究と美術理論研究の確立を目標としている。

[大学院美術研究科博士前期課程（修士）の目的・教育目標]

大学院美術研究科博士前期課程（修士）は、美術・デザイン領域における高度な知識と技能を備えた人材を育成するため、昭和 39（1964）年に芸術系私立大学ではわが国初めての認可を受けた。絵画、彫刻、デザインの専攻を設置し、平成 10（1998）年に芸術学専攻、平成 14（2002）年には工芸専攻を開設して、1 研究科 5 専攻の編成としている。

クラス制の色合いを濃くし、担当教員によるマンツーマンの指導体制を基本とし、領域の専門性を深めることを目標としている。国際的な視野を具えた人材育成のため、多くの外国人留学生を受け入れ、国際化を図っている。平成 7（1995）年に昼夜開講制を導入した。

[美術学部の目的・教育目標]

国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育研究者等の育成を目的として、教育研究の内容の充実と高度化を図っている。

美術大学の性格上、来るべき社会に対応する専門的な技能の修得と訓練に重きを置いている。しかし芸術の創作は、人間を忘れ学理を離れた、単なる職能人にとどまることによっては達成されないものである。教育理念として懇切な実技指導に加えて、次の 2 つの特徴が挙げられる。

第一に、学理の尊重は創立以来の本学の伝統である。専門教育ならびに教養・総合教育の両者ともに、広い基礎的教養を育成し、学理を中心とした専門教育の推進に努めている。

第二に、人間の主体性の確立と創造性の開発は、美術教育に不可欠の条件として特に重視している。教養・学理・実技にわたる教育は、同時に豊かな心情と自由な創意と批判的な精神に貫か

れた、芸術的個性の形成を目指している。

以上の教育目標実現のため、少人数教育を採っている。カリキュラムは少数の学生を単位に編成され、特にゼミナールを強化して、人間的接触による指導の徹底を期している。また、課題解決型の授業により、自ら思考し、具体化する技能を身に付けることを何よりも重視している。

[造形表現学部（夜間）の目的・教育目標]

美術・デザイン教育を夜間に行うわが国唯一の学部であり、平成元（1989）年に美術学部二部として開設され、その後平成 11（1999）年 4 月に発展的改組転換をして現在に至っている。

美術学部と同じく、専門職業人、独立した作家の育成を目的としている。それに加え、造形表現学部は通学至便の地にある夜間学部の特性を活かし、社会人の再教育・生涯教育の機会を提供することを大きな目的としている。

午後 6 時から（土曜日は午後 2 時から）午後 9 時 10 分までの授業時間で、4 年間で卒業できるカリキュラムを組んでおり、社会人の再教育・生涯教育の推進にあっている。

なお、平成 25（2013）年 4 月をもって募集を停止した。

5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率

【大学院】

平成29年5月1日現在

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率
八王子 及び 上野毛	美術研究科 博士前期課程	絵画専攻	日本画 油画 版画	60	120	92	76.7%
		彫刻専攻		12	24	20	83.3%
		工芸専攻		10	20	15	75.0%
		デザイン専攻	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン コミュニケーションデザイン	45	90	118	131.1%
		芸術学専攻	芸術学 身体表現	10	20	8	40.0%
	小計		137	274	253	92.3%	
	博士後期課程	美術専攻		7	21	16	76.2%
合計				144	295	269	91.2%

【学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率	
八王子	美術学部	絵画学科	日本画 油画 版画	195	780	(155) 821 (536) (130)	105.3%	
		彫刻学科		30	120	137	114.2%	
		工芸学科	陶 ガラス 金属	60	240	273	113.8%	
		グラフィックデザイン学科		184	736	765	103.9%	
		生産デザイン学科	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	104	416	451 (270) (181)	108.4%	
		環境デザイン学科		80	320	343	107.2%	
		情報デザイン学科	情報芸術 情報デザイン	122	488	574	117.6%	
		芸術学科		40	160	181	113.1%	
		統合デザイン学科		120	480	497	103.5%	
		演劇舞踊デザイン学科		80	320	322	100.6%	
小計				1015	4,060	4,364	107.5%	
上野毛	造形表現学部	造形学科				0		
		デザイン学科				0		
		映像演劇学科					2	
		小計					2	
合計				1,015	4,060	4,366	107.5%	
合計				1,159	4,355	4,635	106.4%	

()内は専攻内数

6. 学部学科・専攻別進路状況

平成30年3月31日現在

大学院	修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他
絵画	43 (26)	24 (18)	23 (17)	2 (1)	18 (8)
彫刻	10 (8)	3 (3)	3 (3)	2 (1)	5 (4)
工芸	10 (10)	5 (5)	5 (5)	2 (2)	3 (3)
デザイン	57 (40)	36 (25)	26 (18)	3 (2)	28 (20)
芸術学	4 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	2 (1)
美術(後期課程)	3 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (1)
合計	127 (88)	70 (53)	59 (45)	10 (6)	58 (37)
修了者に対する割合			46.5%	7.9%	45.7%

美術学部	卒業生	就職希望者	就職者	進学者	その他
絵画	187 (141)	97 (78)	80 (67)	42 (31)	65 (43)
日本画	36 (27)	19 (14)	17 (13)	12 (10)	7 (4)
油画	121 (88)	61 (48)	52 (44)	25 (18)	44 (26)
版画	30 (26)	17 (16)	11 (10)	5 (3)	14 (13)
彫刻	34 (20)	17 (14)	17 (14)	11 (3)	6 (3)
工芸	59 (45)	38 (28)	35 (26)	12 (9)	12 (10)
グラフィック	184 (144)	146 (116)	127 (100)	11 (7)	46 (37)
生産	107 (72)	90 (63)	86 (62)	7 (6)	14 (4)
プロダクト	66 (33)	59 (32)	56 (32)	1 (1)	9 (0)
テキスタイル	41 (39)	31 (31)	30 (30)	6 (5)	5 (4)
環境	66 (41)	41 (29)	37 (25)	6 (1)	23 (15)
情報	144 (108)	111 (85)	96 (72)	8 (7)	40 (29)
メディア芸術	70 (51)	49 (35)	39 (27)	4 (4)	27 (20)
情報デザイン	74 (57)	62 (50)	57 (45)	4 (3)	13 (9)
芸術学	33 (14)	25 (11)	20 (9)	2 (1)	11 (4)
統合	100 (80)	82 (66)	71 (57)	5 (3)	24 (20)
演劇舞踊	57 (45)	27 (23)	26 (22)	3 (2)	28 (21)
演劇舞踊デザイン	38 (28)	10 (8)	10 (8)	2 (1)	26 (19)
劇場美術デザイン	19 (17)	17 (15)	16 (14)	1 (1)	2 (2)
合計	971 (710)	674 (513)	595 (454)	107 (70)	269 (186)
卒業生に対する割合			61.3%	11.0%	27.7%

()内は女子学生内数

7. 役員に関する情報

平成 29 年 4 月 1 日現在

役員 (10 名)		評議員 (19 名) (五十音順)	
理事 7 名		評議員	安倍 千隆
理事長	藤谷 宣人	評議員	大貫 卓也
理事 (学長)	建畠 哲	評議員	久保田 晃弘
理事	岩倉 信弥	評議員	近藤 秀實
理事	高橋 史郎	評議員	高橋 正
理事	田口 敦子	評議員	建畠 哲
理事	野口 裕史	評議員	田淵 論
理事	本江 邦夫	評議員	中島 和彦
		評議員	野口 裕史
監事 3 名		評議員	野澤 敏之
監事	飛鳥田 一朗	評議員	平出 隆
監事	荒川 直	評議員	深澤 直人
監事	森 三千郎	評議員	藤谷 宣人
【参考】 理事定数 7～9 名 監事定数 2～4 名 評議員定数 19～21 名		評議員	三浦 武彦
		評議員	室越 健美
		評議員	本江 邦夫
		評議員	山下 恒彦
		評議員	渡辺 達正
		評議員	和田 達也

8. 教職員に関する情報

平成 29 年 5 月 1 日現在

教員数 (本務者)		教員数 (兼務者)	
学長	1 名 (0 名)		
教授	114 名 (21 名)	客員教授	56 名 (13 名)
准教授	19 名 (6 名)		
講師	11 名 (3 名)	非常勤講師	384 名 (127 名)
学部助手	43 名 (23 名)		
大学院助手	3 名 (1 名)		
合計	191 名 (54 名)	合計	440 名 (140 名)

() 内は女性教員内数

◆教員の保有学位・実績等：多摩美術大学教員業績公開システム <http://faculty.tamabi.ac.jp/>

職員数	161 名 (74 名)
-----	--------------

9.学習環境に関する情報

上野毛キャンパス 大学院 美術学部 造形表現学部	[所在地] 東京都世田谷区上野毛 3-15-34
	[主な交通手段] 東急大井町線「上野毛駅」下車、徒歩 3 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本館、1号館、2号館、3号館、 講堂、図書館、A棟、B棟、演劇舞踊スタジオ

八王子キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都八王子市鍵水 2-1723
	[主な交通手段] J R 横浜線・京王相模原線「橋本駅」下車、神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」8分 J R 「八王子駅」下車、京王バス「多摩美術大学行」20分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本部棟、絵画東棟、絵画北棟、彫刻棟群、工芸棟群、デザイン棟、テキスタイル棟、情報デザイン棟・芸術学棟、共通教育センター、図書館、メディアセンター、レクチャーホール、アートテーク、グリーンホール、体育館、T A Uホール、工作センター、第二工作センター、学生クラブ棟
[運動施設の概要] 体育館、グラウンド、テニスコート	

[学外施設] ・大学附属美術館（東京都多摩市） ・富士山麓セミナーハウス（山梨県） ・奈良古美術セミナーハウス（奈良県）

[附置研究所] ・芸術人類学研究所（八王子キャンパス）

Ⅱ. 事業の概要

1. 中長期的な基本計画

近年、大学を取り巻く社会環境は大きく変化してきているが、芸術系の大学もその例外ではありえない。グローバリズムの波が文化芸術の分野にも押し寄せ、他方では多文化主義の主張が幅広く浸透してきている。AIの急速な進展もアートに大きな影響を及ぼさずにはおかないだろう。負の側面としては偏狭で排他的な不寛容の思想が台頭し、テロや地域紛争は絶えることがなく、また貧困の問題がシリアスさを増してきている。

こうした状況下において本学に期待される役割はきわめて大きいといわなければならない。時流に迎合するのではなく、将来のヴィジョンを見極めた上で社会的な要請に積極的に対応することは、象牙の塔であることに甘んじてはられない大学の喫緊の使命であるにちがいない。建学以来の教育、創造、研究の伝統を踏まえつつ、柔軟かつ大胆に、新たな時代のアートの中核を担う大学の責務を果たしていくつもりである。

さて本学においては教育に関する質的転換を図るための施策として、学長のリーダーシップの下で法令上位置付けられた三つのポリシーの策定が稼働している。

「卒業の認定に関する方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)を策定しステークホルダーに的確に伝わる内容に表現して、これらのポリシーと本学の建学の精神である「自由と意力」に基づく大学教育改革を自主的・自律的に推進し永続的な発展を目指す。

アドミッション・ポリシー改革の手始めとして平成28(2016)年11月、全学科において推薦入試を実施し、表現者としてオリジナリティ溢れる創造力・発想力・表現力・企画力・応用力・柔軟性等を備えた意欲ある多様な入学生を迎えたところである。

平成29年度の事業計画策定にあたり、その前提となる中長期的な基本計画は以下の通りである。

- (1) 教育及び研究体制の整備と再点検
- (2) 学生受け入れ態勢の強化
- (3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備
- (4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革
- (5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備
- (6) 管理運営の強化

2. 平成29(2017)年度 事業計画と達成状況

(1) 教育及び研究体制の整備と再点検

1. 教育課程、教育内容、教育方法改善に向けた取り組み

①教育課程の体系化

カリキュラム、履修案内、シラバス、時間割、出校表等を再点検して教育課程を体系的に整備し授業と学事の円滑な実施を進めた。

②カリキュラム改革への取り組み

平成27年度に改訂した教養教育カリキュラム設計書に基づく、共通教育時間割のゾーン・ルール化やシェイプアップ化などの改革を更に推進し新カリキュラムを実施した。

③統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科の完成年度に向け設置の趣旨、目的に沿った教育研究活動の実施及びカリキュラム、時間割の充実化を図り設置計画の完全履行を実現した。

④多様化する学生への対応

適切、親密な履修相談等を通じて欠席過多学生や障がいを持つ学生への修学支援を推進した。

2. 大学基準協会認証評価（平成 27 年度申請）結果の対応

【教員・教員組織】

①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

美術研究科の教育課程の編成・実施方針は課程ごとに定めた。美術学部の教育課程の編成・実施方針は、内容を見直しホームページに公表した。

②教育課程・教育内容

美術研究科博士後期課程は課程制大学院制度の趣旨に照らして改善し、同課程に相応しい教育内容とした。

③教育方法

年間履修登録可能単位数の上限を設定した。

美術研究科博士前期課程における研究指導や学位論文作成指導を研究指導計画に基づき確実に行うよう改めた。

④成果

「課程博士」の取り扱いを見直した。美術研究科博士前期課程及び博士後期課程において学位論文や作品の審査基準を「履修案内」等に明記した。

【内部質保証】

全学的なPDCAサイクルを機能させるため「学内改革・大学評価申請本部」の設置、構成メンバー、審議事項、自己点検・評価の周期等を定め、内部質保証についての恒常的な組織体制が確実に機能するよう進めた。

3. 研究施設及び研究発表スペースの充実

①アートテークの本格稼働

知と創造の芸術的複合施設として本格稼働させ研究成果発表に広く活用した。

(2) 学生受け入れ態勢の強化

1. 平成 29 年度生入試より開始した推薦入学試験の継続実施

それぞれの分野で望まれる資質、そこで学ぶ積極的な意欲、将来への明確な姿勢などを総合的に試す推薦入学試験を継続実施することで、表現者としてオリジナリティに溢れた意欲ある多様な入学生を迎えることができた。

2. 進学相談会等の取り組み

オープンキャンパスと進学相談会の同時開催を7月15日（土）、16日（日）の2日間実施、11月3日（金）～5日（日）開催の芸術祭においても進学相談会を実施し密度の濃い情報提供を行った。更に高等学校教員が開催する各種大会や協議会などについても取り組みを強化した。

3. 学生支援

- ① 学生生活調査結果を活用した体系的な学生支援体制の構築を図った。
- ② 八王子キャンパス南側遊歩道隣接地における学生寮の整備計画を策定した。
- ③ 本学学生優先寮の整備

平成 27 (2015) 年から本学学生の入入れが始まった学生寮の利用者数が増加した。

【学生優先寮の概要】

建物名 ディアコニア橋本

所在地 相模原市緑区橋本 6-6-10

八王子キャンパスから約 2 km (橋本駅まで徒歩約 5 分)

構造等 平成 15 (2003) 年 3 月竣工、RC 造 6 階建、全 137 室うち 100 室

- ④ 新たな奨学金を創設した。

今後 10 年間に亘り、毎年奨学費として学業成績最優秀者 30 余名へ各 30 万円を給付する創立 80 周年記念奨学金を創設した。

(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備

1. 新たな交換留学実施のための海外協定校拡充

ウィーン応用美術大学(オーストリア)及びローザンヌ芸術大学(スイス)と平成 30(2018)年度協定締結に向けて足固めを行った。

2. 交換留学制度 (派遣・受入)

交換留学生派遣については、協定校のうちベルリン芸術大学(ドイツ)4名、アアルト大学(フィンランド)2名、弘益大学校(韓国)2名、ヘリット・リートフェルト・アカデミー(オランダ)1名、シンシナティ大学(アメリカ)1名、グラスゴー美術学校(イギリス)1名、チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ(イギリス)1名、国立台北芸術大学(台湾)1名、国立台湾芸術大学(台湾)1名、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(イギリス)1名、合計 15 名となった。

交換留学生受入についてはベルリン芸術大学(ドイツ)3名、アアルト大学(フィンランド)2名、弘益大学校(韓国)2名、ヘリット・リートフェルト・アカデミー(オランダ)2名、シンシナティ大学(アメリカ)2名、中央美術学院(中国)2名、国立台湾芸術大学(台湾)1名、オスロ国立芸術大学(ノルウェー)1名、グラスゴー美術学校(イギリス)1名、ナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン(インド)1名、チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ(イギリス)1名、ソウル大学校(韓国)1名、合計 19 名となった。

3. パシフィック・リム (Pacific Rim)

12 回目を迎える今年のプロジェクトテーマは「Eco Research Lab ～自然からの恵み～」であった。

最初に、参加学生 10 名はアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン(アメリカ)の学生 10 名とともにコスタリカに 2 週間滞在し、自然・生物・風習・歴史について調査をした。その後ロサンゼルスで 3 か月間、その環境や文化から得られる恩恵について共同研究を行った。

コスタリカの自然の力を感じさせる環境的提案から、生物保護のための研究所の提案、社会貢献的な提案まで 6 つの提案が最終成果として発表された。

(4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革

美術学部は八王子キャンパスに8学科5専攻2コース、上野毛キャンパスに2学科2コースが設置され、それぞれが高い専門性を持った教育研究を進めている一方で、学科別にタテ割りで全学科を貫くもの、いわゆる総合性に欠けることがある。

これを補う視点から、本学が目指す専門的職業人や独立した作家の育成に不可欠なプログラムとして、全学科・全学年の学生が履修できる課題解決型のPBL (Project Based Learning) 科目や企業及び自治体との産学官共同研究、著名な企業人や作家を招く特別講義など全学科対象のオープン科目を導入し、学生が授業を通じて触発し合うことにより、柔軟な考え方や新たな創造を生み出す取り組みを継続的に実施した。

また、共通教育においては総合的な教養に配慮して芸術を目指すものの基盤を重視した科目を配置した。

(5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備

本学の校地及び校舎面積は国が定める大学設置基準を満たしており、上野毛キャンパスと八王子キャンパスにおいて、それぞれの立地の特性を活かした教育研究活動が行われている。

特に教育研究領域に対応する専門施設に加え、共同施設（図書館、美術館、メディアセンター、アートテーク、セミナーハウス奈良飛鳥寮・山中純林苑等）も充実しており所属学科の領域外のことに触れて学ぶ環境も十分整備されているが、更にこれらの施設設備の充実を目指す。

1. 上野毛キャンパス整備

- ①統合デザイン学科・演劇舞踊デザイン学科の完成年度に向けた学科設置計画にかかる施設設備の改修工事を計画通り実施した。
- ②上野毛新キャンパス構想が提案されたことにより、キャンパスに隣接する道路（都道駒沢通り）拡幅計画にかかる対応が進捗した。

2. 八王子キャンパス整備

- ①過年度に実施された施設設備の修繕や改修工事履歴に基づく、長期修繕計画をまとめ効果的な施設設備の改修工事を実施した。
- ②八王子キャンパス全体の修繕計画（案）については、平成30（2018）年度中に策定する。
- ③昨年度末取得したキャンパス南側遊歩道隣接地における学生寮の整備計画を策定した。

(6) 管理運営の強化

1. 人事管理・労務管理の見直し

- ①新人事システム移行後の検証と円滑な運営を実行した。
- ②新人事システムとの連携による勤怠管理システムの導入について検討、継続課題とした。
- ③賃金テーブルの見直しを柱とする新人事制度について提案・実行した。

2. 人材の採用・育成

- ①就職情報サイト利用（マイナビ）による新卒職員採用を実施した。
- ②専任職員はキャリアプランを作成し、管理職はプランに基づき部署別人材育成計画を策定した。
- ③キャリアプランに基づく個別面談を実施した。

④組織力の強化・業務知識の向上・スタッフ能力の高度化等を目的に各種研修を実施した。

3. 法改正及び危機管理対応

①ストレスチェックについて、制度の周知徹底等により受検率を上げた。

②マイナンバー制度の円滑な運用に努めた。

③大地震対応マニュアルを更新した。

4. 財政基盤の強化

①平成 31（2019）年 10 月からの消費税増税に対応すべく財政基盤強化のため、効率的な予算執行と無駄を省く経費削減を進め安定した教育資金の確保に努めた。

②年間を通じた寄付金受入れや積極的な補助金申請を実行した。

③2018 年～2033 年の 15 年間に亘る 18 歳人口減少影響を取り込んだ財務シミュレーションを作成し、今後の学生数の減少割合と減価償却額の増加を変化させることで経営判断の資料とした。

3. 各部署の取組み

1. 教育改革面

(1) 教務部

①教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取り組み

- ・共通教育の新カリキュラムを平成 29（2017）年度から実施した。
- ・教員免許法改正に伴う全学的な教職課程編成の見直しと授業科目の変更について検討を行い、平成 30（2018）年度から実施することになった。
- ・包括連携協定を締結した学校法人昭和大学とのプロジェクトがスタートした。

②大学基準協会大学評価（平成 27 年度申請）における指摘課題への対応

- ・「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」について、自己点検・評価部会にワーキンググループを編成し集中的に審議を行い、大学の理念、目的、目標、方針に沿った検証と見直しを行い美術学部のポリシーを策定した。

③大学の理念、目的、目標、方針に沿った検証と見直しをして、美術学部のポリシーを策定したことにより教育目標、各方針の内容を見直す機会となり、内部質保証への取組みとして、PDCA サイクルを確立する契機にもなった。

④教務部コンピュータシステム整備

- ・スケジュール管理を適切に行い新システムへの移行スケジュールを見直し、現行システムと新システムの切り替えを平成 30（2018）年 7 月に確実に進めるようにした。

⑤国際交流の推進・制度化

- ・ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン（アメリカ）より、教員・職員を招へいし、特別講義を行った。
- ・南米コスタリカでのリサーチを通じて、Pacific Rim12（アメリカステージ）を実施した。また、日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度（協定派遣）の奨学金を参加学生 9 名に支給することができた。
- ・「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」の第 7 期に 2 名、第 8 期に 1 名の合計 3 名が採択された。
- ・海外から直接入学する外国人留学生の増加により在留資格認定証明書の申請業務が増えたが、滞りなく処理することができた。

(2) 入学センター

- ①一般入学試験のWeb出願に向けたシステム構築について、問題なく実施できた。
- ②アドミッション・ポリシーの再構築については、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとともに教務部が中心となり、教員、事務職員のプロジェクトチームでの策定を行い、ほぼ完成に近づいている。
- ③直接接触と高校教員へのアプローチ等が増え、全入試で志願者増につながった。
- ④オープンキャンパスの内容の見直しと動員強化、高校教員向け広報や地方進学相談会での周辺高校へのアプローチ強化等により、大幅な来場者増となった。
- ⑤全国高等学校美術工芸研究大会、全国高等学校文化連盟、全国美術高等学校協議会、全国高等学校演劇協議会など、公的機関との連携を強化、各団体の参加も増えた。美術、演劇との連携は目途がついたため、今後は舞踊系団体との交流が課題である。
- ⑥国公立併願する受験生を取り込む施策を行い志願者増につながった。

(3) 研究支援部

- ①外部資金による研究費使用事例集や科研費学内ルール改訂版の作成、個人研究費/共同研究費事例集の公開や説明会の実施などを行った。
- ②博士後期課程学生への研究倫理教育の実施、検収体制・不正使用の事前防止のための現状見直しを含む体制整備を行った。
- ③研究成果の発信を強化し、機関リポジトリの運用を開始したが、産学共同研究は24件の実施に留まった。
- ④アートテークでギャラリー展示を28件実施、今井兼次資料を中心にアーカイブの資料整理を行った。

(4) 学生部

- ①学生満足度の向上
 - ・平成28(2016)年学生生活調査結果を詳細分析・課題検討をし、解決に向けて対応を始めた。
 - ・平成28(2016)年度意見箱を取りまとめた。
- ②学生支援の見直し
 - ・学生生活調査結果を踏まえ分析を行い、基盤整備に繋げる取りまとめを行った。
 - ・学生支援に関する施策の適切性に関して、欠席過多学生対応の検証を行った。
- ③奨学金等の対応、見直し
 - ・日本学生支援機構給付型奨学金の対応を適切に行った。
 - ・本学80周年記念奨学金を創設し、適切に実施をした。
 - ・本学奨学金・減免制度をわかりやすさと条件緩和等を整備し、平成30(2018)年度に対応できるようにした。
- ④多様化する学生支援
 - ・欠席過多等要ケア学生について、研究室連携等を図り対応を行った。
 - ・退学者の状況分析を行なった。
 - ・障がいをもつ学生の情報共有と対応を適切に行えた。

- ⑤進路・就職支援対策を推進強化し、最終的に前年度と同様に就職内定率は90%前後となる見込みである。
- ⑥上野毛美術学部進路・就職支援対策として、職員を2名体制にし八王子キャンパスと同様のガイダンスを実施、説明会に関しては、TV中継での開催や上野毛キャンパスでの独自開催も行った。
- ⑦学生支援委員会、就職担当教員との連携は前年よりもできていた。
- ⑧ケアを要する学生への進路・就職相談等については、学生課、相談室とのケース会議を通じて、情報共有することができた。

(5) 図書館

- ①新入生ガイダンスを昨年と方式を変えて実施したところ利用者の伸びがあった。また、ホームページに英文と日本語の詳しい見学案内を掲載した。
- ②上野毛キャンパスはデザイン・演劇映像関係を主体とした蔵書構成に移行し、八王子キャンパスはファイン系とデザイン系を幅広く収集、両館の棲み分けを意識した蔵書構築を行った。
- ③新たな保守体制に切り替えるなど新システムに向けての環境改善を図った。

(6) 美術館

- ①展覧会：収蔵コレクション展等年間6本
- ②学芸員実習：受入れ47名、57日間
- ③アウトリーチ活動：美術鑑賞授業50名、学芸員見学23名

(7) メディアセンター

- ①研究センター：研究成果アーカイブの作製、各棟ギャラリー展示のVRでのアーカイブ化
- ②情報センター：ネットワーク機器の老朽化への対応、サーバー機器交換
- ③映像センター：インターンシップ・学外コンペ対応、高性能PC投入
- ④写真センター：スタジオ施設、写真機材の有効活用及び最新機材へ更新講習会開催
- ⑤工作センター：安全衛生診断に基づく安全第一の運営、3D切削機の稼働
- ⑥CMTEL：企画展「UVインクジェットプリントの幅」「無限の縫いアートへ展」の実施
- ⑦上野毛スタジオ：映像・撮影スタジオ施設の本格稼働、多目的視聴覚部屋整備
- ⑧事務室：アドビソフト講習会の実施による学生無償利用の促進、MCホームページ改訂

(8) 生涯学習センター

- ①生涯学習事業を通じて本学の持つ潜在的な力・リソースによる社会へのアピール
「つくる、考える、そしてつくる」をテーマに掲げ、演習系の講座を中心とした展開を企画・実施した。
- ②子ども講座における多様な事業展開と連携強化
「福島震災後支援プロジェクト」は4年目となり、現地の要望も組み込んだ新プログラムが好評だった。
- ③都心及び上野毛キャンパス周辺で行うフラッグシップ事業の検討

「世紀を歩く」の後継講座の検討に入った。

④広報アプローチの見直しと広報強化

八王子市・地域団体への情報提供により、地元紙・WEB等で活動が紹介された。

⑤上野毛キャンパスでの活動再開を視野に入れた中・長期的プラン作成

八王子で実施するに適した事業構造の構築・内容の充実に力を注いだ。

(9) 芸術人類学研究所

①研究プロジェクトと連動した大学内外における連携活動の推進と教育活動

第5回「土地と力」シンポジウム—イメージの発生、上智大学グリーンケア研究所との連携企画シンポジウム「大地の記憶を彫る—スカンジナビア・アイルランドのロックカービングと身心変容」などを通じて、研究成果を報告した。「土地と力」シンポジウムでは芸術表現の根源としての「イメージの発生」をテーマに、太古の洞窟が持っていた創造性や、その創造性が内包している人間の営みや思想について、抽象的にかつ具体的な議論の展開によって提示し、本学学生を含めた参加者へ向けて研究成果を発表する場となった。

②研究会・プロジェクトの推進とプロジェクト間の連携

「土地と力」プロジェクト、ならびに研究5部門（ユーロ＝アジアをつらぬく美の文明史、野外をゆく詩学、贈与と祝祭の哲学、来たるべき美術、縄れのデザイン）を相互に連携させるプロジェクト運営を核とした、研究会やシンポジウムを開催した。従来では人類学の一角に限定されてきた芸術の歴史・思想を踏まえた創造性を「人類史の現在」に開いていく研究を一層進め、それらの成果は研究所紀要『Art Anthropology』第13号にまとめ学内外に発信した。

2. 管理運営面

(1) 総合企画室

①入学試験に関する市場の調査ならびに諸統計等の収集・分析

現状把握の課題抽出より目標設定項目の洗い出しと目標を設定 ⇒志願者10%増に結び付けた。

②広報誌の見直し

広報コンセプト設定、媒体の再整理 ⇒大学案内：卒業生の活躍ページを追加し6月末納品、「TAMABI NEWS」年4回発行、トナトリエ：一旦休刊

③ホームページの見直し

平成30（2018）年度入試に向けたオープンキャンパス対応ランディングページの設置、SNS対応、トップページをマイナーチェンジしOB情報、動画の新コンテンツを展開

④大学広報の強化

媒体の洗い出しと整理 ⇒新ターゲット獲得に有効なスマホメディア広告を実施、予備校メディアや受験メディアに関して入試情報の告知に変更

⑤パブリシティの獲得

現状メディアの洗い出し、情報収集内容と方法の整理 ⇒大学プレスセンターのリリース配信によるWEBパブリシティ獲得

(2) 総務部

1. 施設整備計画

①上野毛キャンパス施設・設備の整備

- ・大学院新設に向けた施設・設備については、現状施設・設備を学部と共有・有効活用することで取りまとめ、必要最小限に留めることができた。

②八王子キャンパス施設・設備の整備

- ・GHP空調更新工事、EHP空調更新工事、空調新設工事、LED化工事、絵画北棟・共通教育センター屋上防水修繕工事を実施した。

③山中純林苑施設・設備の整備

- ・冷房の設置工事を行った。

2. 管理運営計画

①労務管理・人事制度の見直し

- ・賃金テーブルを改正し、次年度より新たに昇給に人事考課を導入する人事制度の見直しを行った。

②人材の採用・育成

- ・就職情報サイトの利用によりエントリー数が飛躍的に増えた。
- ・学内集合研修、学外SD研修・業務研修（公開講座）を組み合わせることで研修を実施した。
- ・職員を対象とした「キャリアプランシート」を導入、部署別人材育成計画を策定した。

③法改正及び危機管理への対応

- ・ストレスチェックの業者を変更、周知の徹底等により受検率を上げることができた。
- ・上野毛キャンパスにおいて、避難訓練を実施した。

④山中純林苑、奈良飛鳥寮セミナーハウスの管理・運営

- ・管理委託業者との遣り取りが軌道に乗り、円滑に管理・運営できている。

⑤各建物の長期修繕計画推進

- ・八王子キャンパス全体の修繕計画（案）について、平成30（2018）年度中に策定する。

(3) 経理部

①資産運用基準変更及びポートフォリオの実践

メガバンク系の劣後債による運用を開始したが、マイナス金利は当面続くと予想されることから今後も引き続き債券運用を増やしていく。

②経営判断資料としての2018年～2033年間の財務シミュレーション作成

キャンパス再整備を中心とした大規模な投資計画とあわせながら財務シミュレーションを作成し、今後の学生数の減少割合と減価償却額の増加を変化させることで経営判断の資料とした。

③財務基盤強化

特定公益増進法人への寄付について税額控除の申請を予定していたが、具体的な募集骨子ができなかったため見送りとした。

④未整備のマニュアル作成

作成・改定計画を作成し、履行していく。

Ⅲ. 平成29年度 予算執行状況および財務状況

当期の予算執行および財務状況について、概要を報告します。

(会計についての詳細はホームページの「多摩美術大学について」→「会計・事業報告」をご参照ください)

1. 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。
なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	7,556,242	7,648,700	△92,458
手数料収入	169,850	208,863	△39,013
寄付金収入	850	31,050	△30,200
補助金収入	590,300	595,577	△5,277
資産売却収入	200,000	200,006	△6
付随事業・収益事業収入	30,000	44,671	△14,671
受取利息・配当金収入	46,900	57,975	△11,075
雑収入	194,000	211,467	△17,467
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	3,248,220	3,890,066	△641,846
その他の収入	329,170	356,210	△27,040
資金収入調整勘定	△4,112,754	△4,141,924	29,170
当年度資金収入合計(A)	8,252,778	9,102,661	△849,883
前年度繰越支払資金	13,371,848	13,371,848	0
収入の部合計	21,624,626	22,474,509	△849,883

新学科開設(統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科)により予算額を上回りました。

多摩美術大学奨学基金への寄付金等により予算額を上回りました。

私立大学経常費補助金5億9,446万円、うち特別補助5,565万円(成長力強化に貢献する質の高い教育30万円、社会人の組織的受入175万円、国際交流の基盤整備1,674万円、大学院等の機能高度化1,243万円、授業料減免及び経済的支援2,443万円)の交付がありました。昨年度より一般補助額は学校配点が増加しましたが、特別補助額は減少しました。

利付国庫債券1億円、財投機関債1億円の有価証券満期償還額です。

受託研究収入や、生涯学習講座による公開講座収入、文化庁等の受託事業収入等で予算額を上回りました。

(支出の部)			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,130,361	3,974,640	155,721
教育研究経費支出	2,122,445	1,852,331	270,114
管理経費支出	369,850	313,866	55,984
借入金等利息支出	2,300	2,264	36
借入金等返済支出	54,720	54,720	0
施設関係支出	390,000	155,065	234,935
設備関係支出	491,250	372,427	118,823
資産運用支出	1,239,300	1,239,300	0
その他の支出	349,858	332,161	17,697
予備費	279,050	—	279,050
資金支出調整勘定	△320,530	△375,623	55,093
当年度資金支出合計(B)	9,108,604	7,921,151	1,187,453
翌年度繰越支払資金	12,516,022	14,553,358	△2,037,336
支出の部合計	21,624,626	22,474,509	△849,883

長期金利は低水準が継続していますが、銀行の定期預金、債券の新規購入による資産運用額の増加により予算額を上回りました。

退職金は予算額を上回りましたが、造形表現学部閉部等により人件費全体が抑えられ予算額を下回りました。

光熱水費、旅費交通費、構築費、校内警備費、業務委託費等が増加しましたが、消耗品費や営繕費、新聞雑誌費等の減少もあり全体としては予算額を下回りました。

八王子キャンパス…本部棟、デザイン棟、共通教育センター、メディアセンター等の空調機改修、メディアホール、TAUホールの照明LED化工事、第2工作センター地下の受変電所専用受電対応改修工事等。
上野毛キャンパス…各所改築・改修工事、映像スタジオの演出照明設備電源工事等。

当年度資金収支差額(A)-(B)	△855,826	1,181,510	△2,037,336
------------------	----------	-----------	------------

減価償却引当特定資産を10億円増額(合計73億円)しました。
第3号基本金引当特定資産を3,000万円増額(合計3億7,000万円)しました。
有価証券を新規に購入しました。

上記により翌年度繰越支払資金が予算対比、前年度決算額対比で増加しました。

2. 事業活動収支計算

事業活動収支計算について、その主な内容を報告します。

【事業活動収支計算総括表】

(単位:千円)

科目		予算	決算	差異
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,556,242	7,648,700	△92,458
	手数料	169,850	208,863	△39,013
	寄付金	850	31,050	△30,200
	経常費等補助金	590,300	595,577	△5,277
	付随事業収入	30,000	44,671	△14,671
	雑収入	194,000	211,467	△17,467
	教育活動収入計	8,541,242	8,740,328	△199,086
	人件費	4,141,411	3,916,007	225,404
	教育研究経費	3,527,445	3,215,787	311,658
	(うち減価償却額)	1,405,000	1,363,456	41,544
	管理経費	456,700	400,709	55,991
	(うち減価償却額)	86,850	86,842	8
	徴収不能額	0	0	0
教育活動支出計	8,125,556	7,532,503	593,053	
教育活動収支差額	415,686	1,207,825	△792,139	
教育活動外収支	受取利息・配当金	46,900	57,976	△11,076
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	46,900	57,976	△11,076
	借入金等利息	2,300	2,264	36
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	2,300	2,264	36
	教育活動外収支差額	44,600	55,712	△11,112
経常収支差額	460,286	1,263,537	△803,251	
特別収支	資産売却差額	413	419	△6
	その他の特別収入	1,000	24,800	△23,800
	特別収入計	1,413	25,219	△23,806
	資産処分差額	5,000	1,273	3,727
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	5,000	1,273	3,727
	特別収支差額	△3,587	23,946	△27,533
予備費	365,650		365,650	
基本金組入前当年度収支差額比率(注1)	1.1%	14.6%		
基本金組入前当年度収支差額	91,049	1,287,483	△1,196,434	
基本金組入額合計	△155,066	△64,373	△90,693	
当年度収支差額	△64,017	1,223,110	△1,287,127	
前年度繰越収支差額	△4,622,636	△4,622,636	0	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△4,686,653	△3,399,526	△1,287,127	
事業活動収入計	8,589,555	8,823,523	△233,968	
事業活動支出計	8,498,506	7,536,040	962,466	

退職金財団からの交付金、科学研究費補助金間接経費等により予算を上回りました。

退職金および退職給与引当金の減少で予算を下回りました。

減価償却額等の減少により、全体額は予算を下回りました。

額面以下の価格で購入し運用していた債券(利付国庫債券、財投機関債)の満期償還による額面と購入額の差額です。

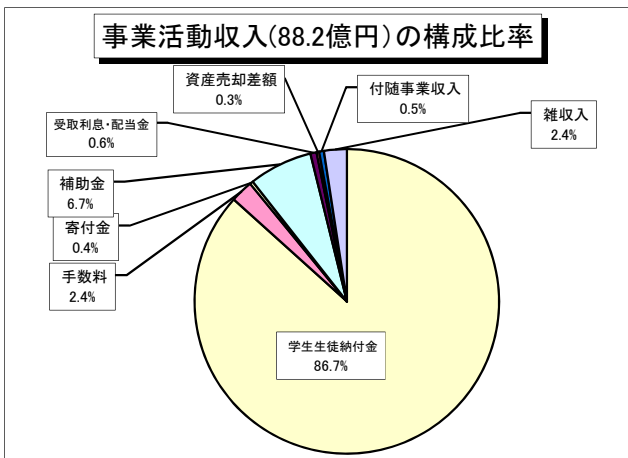
絵画作品、ポスター、資料等や科学研究費補助金から購入された教育研究用機器備品および圖書の現物寄付として2,480万円相当額の寄贈がありました。

圖書の汚損・紛失・除籍により69万円、建物付属設備の撤去により58万円の処分差額が発生しました。

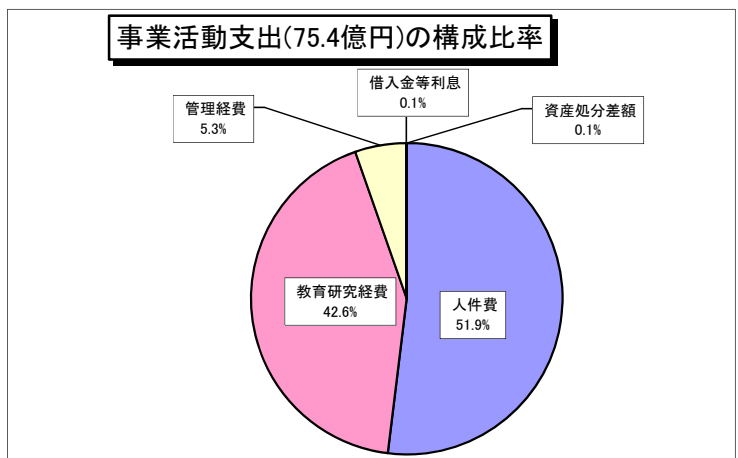
上記の結果、事業活動収入は88億2,352万円となり予算を上回りました。また、基本金組入前当年度収支差額比率は14.6%になりました。これは今後の継続的な施設整備計画の資金に充当されます。当年度の収支差額は12億2,311万円となり翌年度繰越収支差額は△33億9,952万円と改善しました。この繰越収支差額は、将来計画にかかる基本金の先行組入れ(70億円)や借入金に頼らない施設設備充実の結果生じた基本金組入れによるもので、中期的には解消し今後も事業活動収支の均衡がとれた運営を目指します。

注1 基本金組入前当年度収支差額比率=基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入計×100

事業活動収入(88.2億円)の構成比率



事業活動支出(75.4億円)の構成比率



3. 貸借対照表

貸借対照表について前年度からの増減と5カ年推移を報告します。
(資産の部) (単位:千円)

科目		H29年度末	H28年度末	増減
資産	固定資産	55,200,679	55,090,052	110,627
	有形固定資産	35,928,236	36,826,709	△898,473
	特定資産	16,763,874	15,761,704	1,002,170
	その他の固定資産	2,508,569	2,501,639	6,930
	流動資産	14,818,478	13,749,582	1,068,896
合計		70,019,157	68,839,634	1,179,523

(負債の部・純資産の部)

科目		H29年度末	H28年度末	増減
負債	固定負債	1,979,570	2,092,923	△113,353
	流動負債	4,531,487	4,526,094	5,393
	合計	6,511,057	6,619,017	△107,960
純資産	基本金	66,907,626	66,843,253	64,373
	第1号基本金	59,035,922	59,001,549	34,373
	第2号基本金	7,019,624	7,019,624	0
	第3号基本金	372,080	342,080	30,000
	第4号基本金	480,000	480,000	0
	繰越収支差額	△3,399,526	△4,622,636	1,223,110
合計		63,508,100	62,220,617	1,287,483
負債および純資産の部合計		70,019,157	68,839,634	1,179,523

(参考)

減価償却額の累計額	22,929,312	22,202,910	726,402
基本金未組入額	0	34,373	△34,373

貸借対照表についてH27年度～H25年度を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科目		H27年度末	H26年度末	H25年度末
資産	固定資産	54,871,486	53,860,387	53,162,312
	有形固定資産	36,362,223	35,901,176	35,289,438
	特定資産	16,111,704	15,061,705	14,475,952
	その他の固定資産	2,397,559	2,897,506	3,396,922
	流動資産	12,822,424	12,736,977	12,471,546
合計		67,693,910	66,597,364	65,633,858

(負債の部・純資産の部)

科目		H27年度末	H26年度末	H25年度末
負債	固定負債	2,185,080	2,285,480	2,352,456
	流動負債	4,197,626	4,156,673	4,090,249
	計	6,382,706	6,442,153	6,442,705
純資産	基本金	66,763,605	65,178,769	64,354,577
	第1号基本金	57,521,901	55,937,065	54,698,625
	第2号基本金	8,419,624	8,419,624	8,834,872
	第3号基本金	342,080	342,080	341,080
	第4号基本金	480,000	480,000	480,000
	繰越収支差額	△5,452,401	△5,023,558	△5,163,424
合計		61,311,204	60,155,211	59,191,153
負債および純資産の部合計		67,693,910	66,597,364	65,633,858

(参考)

減価償却額の累計額	21,215,898	20,038,122	19,149,070
基本金未組入額	58,493	4,506	0

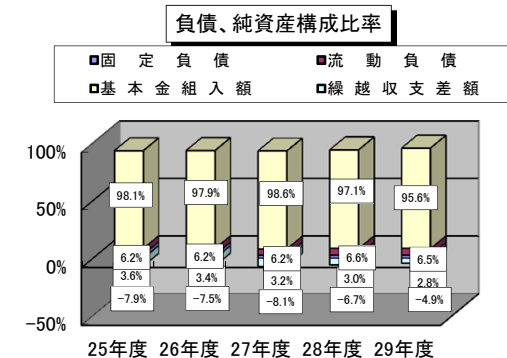
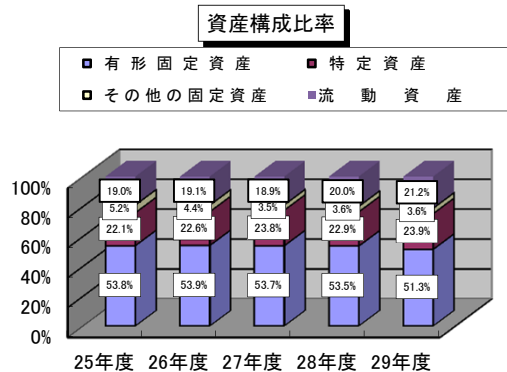
建物… キャンパス内各棟改修、LED化、空調設備新規設置、受変電所専用受電対応改修工事他。
教育研究用機器備品… 鋳造機、3D切削工作機、3Dプリンター、プロジェクター、iMac他。
美術参考品… 横山操絵画作品70点、福田繁雄・田中一光・永井一正・サイトウマコト ポスター2,042点、渡辺達正版画作品102点、宮崎進作品5点。
その他 図書、構築物、管理用機器備品、美術参考資料、車両等の取得。

「第3号基本金引当特定資産」は寄付金による基本金増により3,000万円の増加。「減価償却引当特定資産」残高は10億円増額し73億円。「退職給与引当特定資産」残高は退職給与引当金が減少したことから2,043万円減の19億7,957万円。多摩美術大学創立80周年記念奨学金基金引当特定資産残高は奨学金給付による取崩し930万円と利付国庫債券による運用益および寄付金の計190万円との差額740万円の減少。保有の有価証券は、引当特定資産分を含め35.3億円(H30/3月末現在の取得価額に対する評価はプラス2億27万円)で昨年度比2億円の増加。

現金預金残高は前年比11億8,150万円増加し145億5,335万円、退職金財団交付金等の未収入金が1億1,730万円減少し2億680万円、前払金は699万円増加し5,752万円。

長期借入金残高は0円となり、退職給与引当金残高は308名分で5,863万円減の19億7,957万円。

第1号基本金＝平成29年度の組入額(資産取得)5億5,229万円と当年度除却資産の基本金組入額7億2,517万円との差額1億7,288万円は教育研究用機器備品の繰延額となり、過年度の未払金支払による未組入分3,437万円を組入れました。



4. 財務比率<平成25年度から平成29年度>

※芸術系(19法人)平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編【今日の私学財政】平成29年度版より算出しました。

項目	算式	評価	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	47.3%	46.7%	45.6%	47.7%	44.5%	55.8%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	56.1%	53.9%	53.3%	55.7%	51.2%	72.6%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	5.8%	4.6%	5.1%	4.4%	4.6%	11.5%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%
事業活動支出比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	▼	89.3%	88.4%	86.6%	89.7%	85.4%	98.2%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	▼	89.3%	98.1%	106.1%	90.5%	86.0%	109.4%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	81.0%	80.9%	81.1%	80.0%	78.8%	86.4%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	9.8%	9.7%	9.4%	9.6%	9.3%	10.6%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	7.6%	7.3%	7.8%	7.4%	6.7%	11.3%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	0.0%	9.9%	18.3%	0.9%	0.7%	10.2%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	97.2%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	36.1%	36.8%	36.5%	37.2%	36.6%	32.8%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{経常収入}}$	△	84.3%	86.7%	86.2%	85.7%	86.9%	76.9%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	—	19.3%	18.6%	18.9%	18.8%	19.2%	13.0%

*「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計 「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計 「運用資産」=現金預金+特定資産+有価証券

*平成26年度以前の大学平均・芸術平均については、旧会計基準(消費収支計算書)のデータであるため新会計基準(事業活動資金収支計算書)に調整をして算出している。

【比率分析の見方】

人件費比率=経常収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。

人件費依存率=学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。

管理経費比率=経常収入に対する管理費用の割合で低い方が望ましい。本学では特に節減に力を入れている。

借入金等利息比率=低い方が望ましい。本学は八王子キャンパス整備の借入金により比率が高かったが返済が進み平均値を下回った。

事業活動支出比率=人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。

基本金組入後収支比率=「事業活動収入-基本金組入額」に対する事業活動支出の割合で低い方が望ましい。100%を超えると支出超過。固定

資産構成比率=総資産に占める固定資産の割合で低い方が望ましい。比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。

総負債比率=低い方が望ましい。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。

補助金比率=事業活動収入に対する補助金の割合で高い方が望ましい。

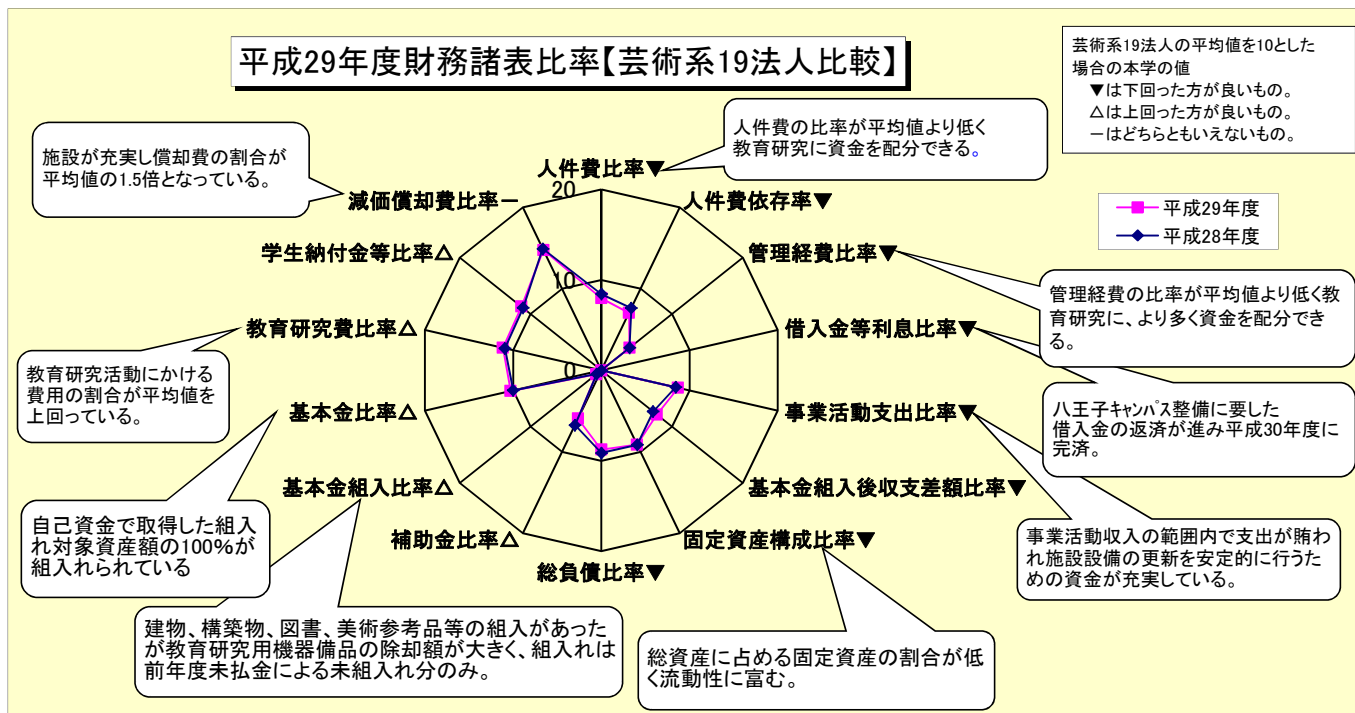
基本金組入比率=事業活動収入に対する基本金組入高の割合で高い方が望ましい。

基本金比率=基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が望ましい。

教育研究費経費比率=経常収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が望ましい。

学生納付金等比率=経常収入の中で最もウェイトが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。

減価償却額比率=将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。



【まとめ】

平成29年度末における本学の財政状況は、学費収入が安定しており、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金も平成30年度には完済となる等、しっかりとした経営基盤を維持しています。この良好な状態は各財務比率でも示されています。

本学は継続的な人件費支出の圧縮や管理経費支出の節減等により、新規の施設設備整備計画に当てるための資金ストックや毎年度の収支差額に不足はなく、今後も安定的な教育運営資金が十分確保されています。

財 産 目 録

平成30年 3月31日

I 資産総額	70,019,157,525 円
内 基本財産	35,933,732,353 円
運用財産	34,085,425,172 円
II 負債総額	6,511,057,278 円
III 正味財産	63,508,100,247 円

科 目		金 額	
資 産			
一 基本財産		(35,933,732,353 円)	
1 土地(団地)		198,947.99 m ²	14,275,478,964 円
内 訳	(1)上野毛キャンパス校地	16,118.66 m ²	10,600,000 円
	(2)八王子校キャンパス校地	164,540.73 m ²	13,258,386,964 円
	(3)美術館敷地(校地)	1,603.00 m ²	920,000,000 円
	(4)山中純林苑敷地	11,929.00 m ²	80,620,000 円
	(5)奈良飛鳥寮敷地	1,469.60 m ²	5,172,000 円
	(6)野尻湖敷地	3,287.00 m ²	700,000 円
2 建 物		110,808.97 m ²	15,411,497,862 円
内 訳	(1)校 舎	96,309.83 m ²	12,485,016,539 円
	(2)図 書 館	6,738.99 m ²	1,431,629,074 円
	(3)講堂・体育館	3,895.29 m ²	443,808,337 円
	(4)学生会館	2,073.99 m ²	311,903,056 円
	(5)そ の 他	1,790.87 m ²	739,140,856 円
3 構 築 物		349 件	2,301,073,026 円
4 教育研究用機器備品		11,677 点	1,138,324,217 円
5 管理用機器備品		470 点	35,624,826 円
6 図 書		207,025 冊	1,383,241,108 円
7 美術参考品		7,785 点	1,325,958,490 円
8 美術参考資料		360 種	53,191,359 円
9 車 両		9 台	3,845,868 円
10 ソフトウェア		1 本	3,223,411 円
11 電話加入権		38 台	2,273,222 円

※土地および建物の面積は、登記上の数値による。

科 目		金 額
二 運 用 財 産		(34,085,425,172 円)
1 現 金、預 金		14,553,357,812 円
2 第2号基本金引当特定資産		7,019,624,477 円
3 第3号基本金引当特定資産		372,079,839 円
4 減価償却引当特定資産		7,300,000,000 円
5 退職給与引当特定資産		1,979,570,017 円
6 多摩美術大学創立80周年記念奨学基金 引当特定資産		92,600,000 円
7 有 価 証 券		2,501,531,000 円
内 訳	(1)利付国債	902,079,000 円
	(2)政府保証債	199,694,000 円
	(3)財投機関債	699,758,000 円
	(4)銀行債	700,000,000 円
8 差 入 保 証 金		1,256,200 円
9 長 期 貸 付 金		285,525 円
10 未 収 入 金		206,796,620 円
11 前 払 金		57,523,682 円
12 立 替 金		800,000 円
資 産 総 額		70,019,157,525 円
負 債		
一 固 定 負 債		(1,979,570,017 円)
1 退職給与引当金		1,979,570,017 円
二 流 動 負 債		(4,531,487,261 円)
1 短期借入金		54,720,000 円
2 未 払 金		335,265,990 円
3 前 受 金		3,890,073,052 円
4 預 り 金		251,428,219 円
負 債 総 額		6,511,057,278 円
正味財産(資産総額－負債総額)		63,508,100,247 円